

# 来年度は『少子高齢化問題』 第11回国際高校生フォーラム in 倉吉

## 50年後の日本はどうなっているのか？

倉吉東高新聞

第42号

3月16日発行  
倉吉東高新聞部

昨年10回の節目を迎えた国際高校生フォーラム来年度のテーマは「少子高齢化問題」に決定した。今回は生徒会担当の山田智子先生にフォーラムについて聞いてみた。

今年テーマを公募



▲ 子供たちの未来は如何に



▲ 私達が定年退職する頃の日本はどんな状況なのか...

が、主体的な学習者を育成するため、今回から公募を導入したという。テーマの選定の際には「良い」「悪い」かに意見が分かれるような是非論は選ばないようにし、話題の最先端で、様々な

意見が出ると予想されるものにしたそうだ。

高齢化が進む日本

少子高齢化は現代の問題である。平成7年に約14%だった65歳人口は、平成19年には約22%に増加した。これはアメリカの12%、韓国の10%と比較しても突出して高い数字である。加えて少子化も進んでおり、福祉や年金・医療費などの国民負担も増加している。また、労働力不足による産業の衰退や、地方の過疎化の深刻化も予想される。このように、我々の未来に直結する問題がフォーラムのテーマになったことはとても意義深いことである。私達高校生が社会に出る頃、また退職する頃も見据えて、長期的な視点からこのテーマを考えたい。自分の問題としてこの問題に取り組み、フォーラムを通じて私達の未来が明るくなることを期待している。

全員が主体的参加を

山田先生は「フォーラム委員だけでなく、聞いている生徒もきちんと意見をもち、全員が主体的に参加するフォーラムにしたい」と言われた。また昨年のフォーラムでは、1年生の役員が少なかつたので、今年は新2年生の役員希望者が増えることを期待されている。そしてこの問題をポジティブに考えて、明るい未来を想像出来るようになった。フォーラムの意義を考え、積極的に参加していくことが重要となるだろう。



▲ 萩原 くらら さん(2年3組)

萩原さんが陸上を始めたのは、小学校6年生の時だ。当時は幅跳びの選手で、陸上大会で県2位になったが、萩原さんはその結果に満足しなかった。全国大会に行くためには県1位にならないといけない。そこで、種目を幅跳びから走り高跳びに切り替えたところ、中学2年生の時に県1位だけでなく全国優勝まで成し遂げた。高校では成績が伸び悩んだ時期もあったが、ついにこの大会で復活のジャ

日本ジュニア室内陸上で優勝

女子走高跳 萩原くららさん(2・3)

2月5日に行われた日本ジュニア大阪室内陸上競技大会(大阪城ホール)において、本校2年生の萩原くららさんが優勝し、日本一の栄冠に輝いた。優勝記録は1m68cmだった。

● 将来の夢は何か？  
「将来は陸上に携わる仕事に就きたい。大学に進学して保健体育の教員免許を取得し、引退後も、指導者として子供達を育てていきたい。全国レベルの合宿では合宿所でも勉強している人が多いので刺激になります」

● 特技はありますか？  
「最近Y字バランスが出来た。トレーニングの1環としてバック転等もしている。」

陸上競技の中でも跳躍種目

● 将来の夢は何か？  
「将来は陸上に携わる仕事に就きたい。大学に進学して保健体育の教員免許を取得し、引退後も、指導者として子供達を育てていきたい。全国レベルの合宿では合宿所でも勉強している人が多いので刺激になります」



▲ 自己ベストに迫る1m68cmの跳躍

● 趣味は何ですか？  
「料理をすること。毎日お弁当は自分で作っています。得意料理は、オムライスとスパゲティ。和風料理にも挑戦したい！」

陸上・勉強など日々忙しい生活を送っているが、時間を見つけて挑戦していきたいことも多いと語っていた。萩原さんは後期生徒会副会長にも立候補され、見事当選を果たしている。陸上と生徒会活動と勉強を両立させている萩原さん。これからも、東高の目標でもある「文武両道」のモデルとして、活躍されることを祈っています。

